

8 授業「水平社宣言」第3学年全体学習公開授業（体育館）

(1) 【指導案】

〈1991年10月11日（金）〉

同 和 問 題 （ 道 徳 ） 学 習 指 導 案

板野中学校 3年B組

指導者 森 口 健 司

① 主 題 人の世に熱あれ、人間に光あれ

② 主題設定の理由

4月の学級開きの日より、私は生徒一人一人がいつか差別解消の主体者として常に美しい生き方を創造し、自らの生き方あり方に誇りを持って一人一人の人生を生き抜いてほしいと願い、同和問題学習に寄せる私自身の思いや願いを語りながら、人間としての生き方について問い続けてきた。

最終学年のスタート、2年生より営まれてきた学年全体による同和問題学習授業を通して、生徒たちは本音の部分語り出した。本年度第3回目の公開授業「きず跡」の学習とき、A子が語る。「家族と一緒に同和問題について話し合うようになったんですけど、将来、私が地区の人と結婚したいと言ったらどうすると聞くと、父と母が言うんです。地区の人はきかない。家の誇りがよごれると言うんです。」続いてB子が語る。「私は今でもあそこへ遊びに行ったらあかんと言われる。あの子とつきあうなとも言われる。」これらの発言は生徒たちにとっても教師集団にとっても、今まで漠然としか見ていなかった部落差別の厳しい現実を見せつけられることになった。私はこのとき、同和問題学習とは、まさしく生徒たちの生命を大切に守り抜き、一人一人の生命を輝かせていく闘いだと思った。

1学期、そんな願いをもって、丸岡忠雄さんの生き方について丸岡さんの講演記録「同和教育への希い」を中心に学習していった。その授業の中で対象地区生徒のC子が「私は3年生になるまでは、自分が部落出身であることを絶対かくしていこうと思っていました。でも、いろいろな資料を勉強し、みんなの意見を聞いて、その言っていることを本当だと信じたとき、この仲間だったら私の一番つらい思いを打ち明けることができると思うようになってきました。今、私は二人の友だちに自分が部落出身だということを打ち明けています。まだ二人しか本当の友だちはいないけど、これからはもっとたくさんの本当の仲間を増やしていきたいです。」と語る。

そのC子を支えるかのように対象地区外の生徒D子が「私もC子さんにそのことを打ち明けてもらったんだけど、自分の一番苦しい部分を打ち明けてくれたんだから、私も心を開いて頑張っていかなきゃいけないかなと思うようになってきました。今、まだ二人にしか言えなかったかもしれないけど、もっとクラスの中の人たちがC子さんの気持ちを受けとめて、みんな今の時間を大

切にしてほしいと思います。」と語る。

C子やD子の訴えに励まされて対象地区生徒のE子が「今、3年生でも、何人かの人が、自分が部落出身ということを全体学習なんかで言ったんだけど、今、C子さんが二人だけと言ったけど、ここにいる3Bのみんなの前や多くの先生方の前で言えたんだから、信じてくれたと思います。私も部落に生まれたんだけど、恥ずかしいと思ったこと一度も……なかったけど……ほなけど言うて差別されたいやじやと思うてずっと言えなかったけど、このクラスの子だったら、信じることができるからこのことが言える。」と語る。

そのE子を支えるかのように、対象地区外の生徒F子が「C子さんとE子さんが言ってくれたけど、これから今日打ち明けたことを後悔するようだったら、私やはいったい今まで何をしてきたんnaと思ってくれていいと思います。私も部落ということを言うた子を変な目で見ようなんて一つも思うてないし、見たらごっつい自分があほらしいなってくると思います。それで、この前読んだ本で心に残っていることなんだけど、一様世間で言う親友とは、親しい友と書いて何でも話し合える友だちということだけど、本当の親友とは、心の友と書いて自分の恥ずかしいところでも、何から何まで端から端まで話し合える友だちを心友というそうです。私もそんな心友をたくさんつくりたいです。」と語る。

続いて対象地区生徒のH子が絶句しながら、「私も部落出身ですが、このクラスのみんなだったらこのことが言えると思います。この前友だちに自分が部落出身ということを打ち明けたら、『ほんなん関係ないでえ』と言ってくれました。私は本当の友だちがいたんだということがわかったのでよかったなあと思いました。」と語る。それを支えて発言が続く。

多くの仲間たちの支えの中で対象地区生徒が立ち上がっていく。対象地区生徒のI子は「私も部落出身ですけど、泣いている子を見たら泣いてほしくありません。そして、その泣いている外側だけ見てほしくありません。悲しみが深いから涙が出てきて止まらないんだけど、この悲しみや苦しみがわかっている友だちがこのクラスにいっぱいいるし……。本当は今、泣きたいんだけど、涙をこらえています。」と語り、以前に3年生全体の中で、自分の一番つらい部分を語ったことのある対象地区生徒のJ男が「やっぱり自分から心を開くことによって友だちも心開いてくれるということが、今、本当にわかってきたと思います。心を開くことにより信じ合う友ができ、お互いに本音で思いをぶつけ合うことができると思います。お互いに涙が出るというのは、涙を流す友だちの気持ちはわからないことはないけど、これからの学習によって涙は出てこなくなると思います。実際にほくもこのクラスでは、信頼している友はたくさんいるし、全体的にも友だちはたくさんいる方だったけど、表面的な友だちがほとんどで本当に信じ合った友だちはあまりいなかったと思うんです。でも、この学習によって、信じ合える友だちがほくも自身の中で増えていったと思います。自分から心を開くことによって、まわりの人も心を開いてくれたことが本当にうれしいです。」と語る。

その仲間の思いをしみじみとかみしめるように、対象地区生徒のK男が「ほくも部落の人間です。今までこのクラスにもそのことをわかってくれる友だちはいないと思っていただけ、

『みんないいなあ』と思いました。森口先生に家庭訪問の時に『お前は部落の人間だ』と言われたとき、自分には差別心がないと思っていたけど、実際にありました。それで、この授業では泣かないと思っていたけど泣いてしまいました。これからこれをバネとして部落解放の道に進んでいって、気軽に部落の人間と言えるような社会をつくっていきたいです。」とその苦しかった胸の内を語っていく。

そして翌日苦しい胸の内をさらけ出した対象地区生徒の一人H子が、次のような生活ノートを書いている。

「私は今日の発言で部落のことが恥ずかしくなくなりました。もう何のこだわりもありません。言っている時は自分で何を言っているのかわからず、涙が出てきたけれど、E子さんやCさんが発言したのに、私だけ黙っていてもいけないなあと思っていたんです。そしたら、自然と手が拳がったのが不思議でした。心臓はドッキンドッキンと破裂しそうだったけど。私の発言の後、L子さん、M子さんたちが言ってくれて、ほっとして言ってよかったなあと思いました。泣くのは今日で終わりにします。J男君とか、N子さんとかも他人の涙は見たくないと言っていたし。今日の授業で私は多くの人に支えられているなあと実感しました。みんな信じ合える仲間です。板野に生まれたこと、部落に生まれたこと、まだまだ不安とかがあるけど、私は強い人間になりたいです。『歎くより怒ることだ』を胸にきざんで。今日で新しい道が開けたような気がします。今まで『学習会の通知やもらいたくない』と歎いていた自分がばかしくなりました。これからも学習会に参加していきたいし、どんどん学習していきたいです。いつか絶対絶対差別がなくなっていると思います。何か、楽しみです。とにかく、今日の授業、忘れられない一日になりそうです。うれしかった。よかった。ビデオ貸してください。」

また授業の後半、吹き出るような涙で語った対象地区生徒のK男も次のように記している。

「今日一つの変革が起こったようだった。今日の授業で、どうして丸岡さんがこんなに訴え続けてきたのか。それを僕らがどう受け止めるかが見えてきたような気がします。今までJ男君一人にたたかわせているようなものだったけど、今日の授業は自分にとっても助っ人みたいになったし、本当に仲間になれたと思う。今日が出発のようなものです。これからの航海をどうしていくか。これからもっともっと話のできる友だちを増やしていきたいと思う。今日、僕は泣いてしまった。泣こうと思っていたのに涙がこぼれた。家庭訪問の時は、目に涙を浮かべたけど流すことはなかった。家庭訪問の時の涙は、心の奥底に差別心があってでてきた涙だったかもしれないけど、今日の涙は違う別のものだと思います。」

そして、授業の中で対象地区に生まれた仲間を必死に支えようとした発言したF子も、その思いを次のように記してきた。

「今日の授業、いつもの雰囲気火をつけたのがCさんだったように思う。『私は部落出身ですが……』その言葉にはじかれたみたいにEさんたちが自分のことを打ち明けていった。そして、正直言ってK男君の涙には驚いた。今まで忘れかけていた人間の本質を思い起こさせてくれた涙だった。今日何人もの人が部落出身であることを打ち明けた。聞いたとき、『ふー

ん、あの子も部落出身なんか。』そう思っただけでそれ以上は何も感じず、打ち明けてくれたうれしさのようなものがあつた。今日言つた子は私たちを信じて言ってくれた。これからこの問題でくじかけたとき、『私は信頼されているんだ。』と思って頑張っていこうと思う。今日の授業を終えて私が3Bのみんなに言いたかつたことは『ありがとう!』だつた。私を信じてくれた人たちへのありがとうの気持ちだし、こんな最高の授業をしてくれたみんなへのありがとうの気持ちがあつた。そして、今の私を形成してくれている私へのありがとうも含まれている。絶対50分は短過ぎた。勇気を持って手を挙げたと共に、チャイムが鳴って意見が言えなかつた子を見たとき、『もったいない』と思つた。せめてあと15分ほしかつた。そしたら、もっといい授業だつただろうに……。私たちはまた大きくなつた。まわりで見ていた先生たちにも何かを与えたと思う。そして、差別解消の出口に近づいた。こんな授業は二度とないかもしれないけど、今日の授業に参加できたことずっと残つていくと思う。今日をステップにまた頑張っていきたい。」

信頼という固い絆で結ばれた生徒たち、その思いをかみしめるかのように対象地区生徒のOさんが2学期始め「涙」という詩を書いた。

《涙》

部落という言葉聞いて
心が重たくなるのはなぜだろう
悲しくなるのはなぜだろう

この差別のために何人の人が苦しみ
何人の人が涙を流しただろうか
そして何人の人が自らの生命を絶つただろうか

私は部落をつくつた人
また部落を差別するすべての人を
決して許さない

私たちが流した涙は
いつか川をつくるだろう
そして部落差別と大きな悲しみを
水といっしょに流してくれるだろう
どこかへ消えてしまうだろう

私は解放の主体者として闘い続ける
部落差別解消の日まで

この詩に込められた思い、それはクラス全員の中にいつまでも流れていく思いであると信じる。4月の出会いの日から営々と続けてきた同和問題学習、その学習の中によって信頼という固い絆で結ばれてきた生徒たち、その絆をより確かなものとし、一人一人が差別解消にむけてよりたくましくより力強く生きてほしいと願う。

このお互いの本当の思いをぶつけ合い、同和教育の喜びをつかみかけた生徒たちと、私は同和問題学習のまとめとして水平社宣言を学びたいと思う。「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」と叫んだ水平社宣言。人間性が蹂躪され魂の冷え凍るような思いで生きてきた対象地域の人々。数々の差別の痛みを知っているからこそ、対象地域のものだけでなく、すべての人間の上に人間の尊厳が光や熱のように輝かしくよみがえれと願った。差別してきたものこそ忌まわしい存在であり、長い間差別の中を生きてきた自分達こそ、真の人間として讃えられるべきと胸をはり、誇りをもって高らかに唱い上げた。このたくましさ優しさが、私の心をとらえて離さない。水平社宣言が私にとって何であるかを生徒一人一人に語りながら、生徒自身が対象地域の人々との間につくっている高い壁を自らの力で打ち破らせたい。さらに、差別の檻に閉じ込められた自分を自らの力で解放し、すべての人間の幸せを自分のものとしてとらえる心を育て、同和問題にかかわる生き方を確立したいと本主題を設定した。

③ ねらい

厳しい部落差別の中で、すべての人間の解放を高らかにうたい上げた人間としての誇りうる生き方に共感させ、自分自身を見つめ、周りを見つめるところから、積極的に差別解消に立ち上がる意欲と実践力を育てる。

④ 視 点 集団と連帯

⑤ 指導計画

- (1) 常時指導 生活ノートや1分間スピーチなどを通して、自分自身の生活をもとに人間としての真実の生き方とは何かについて考えさせている。
- (2) 関連的指導 道徳「ナイン」（井上ひさし）
人間は多くの人と信頼の絆で結ばれており、その固い絆が生きる支えとなっていることを理解し、よりよく生きようとする態度を養う。
- (3) 核心的指導 第一次 道徳「水平社宣言」……………4時間(本時3/4)
第二次 道徳「水平社宣言讃歌」……………2時間
- (4) 発展としての関連指導
特活「進路、私の人生」
同和問題学習の中からつかみ取ったものを土台として、人間としてよりすばらしい生き方を求めるとともに、自分の進路について考えさせる。

(5) 常時指導（発展）

仲間の幸せの中に自らの幸せを見出し、仲間の悲しみをみんなで幸せに変えていこうとする共感と連帯の絆を土台とし、人間を大切にする、人間を尊敬する教育をよりいっそう推進していく。部落差別の悲しみは人間の悲しみなんだという視点に立ち、家庭・地域社会において部落差別解消に取り組む態度と一切の差別を許さない生き方をすべての生徒の中に育てる教育を実践していく。

⑥ 本時の指導

(1) 目 標

人間として生命の輝く生き方とは、どんな生き方をいうか、生きることの意味を求め、自らを解放する力を育てる。

(2) 展 開

学 習 活 動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
1 部落の民衆自身の「人間の尊厳」の自覚を訴えた意味について考える。	・人間は互いの存在を認め合いその生き方を尊敬し合って生きるものである。 ・自分の生き方に誇りを持って生きるのが真の人間の生き方である。 ・苦しみの中に生きてきたからこそ、人間として大切なものや人間の本質を知っている。 ・人間とは憐れむものではなく尊敬するものであるという人間の真実に目覚めていた。	・人間としての尊厳に目覚めた部落の人たちが、すべての人間の幸せを願ったことについて考えさせる。 ・「誇り得る人間の血は涸れずにあつた」ということの意味をとらえさせる。 ・宣言がどうして同情融和運動を否定したかを考えさせる。
2 宣言が団結を訴えた意味について考える。	・人間はどのような状況にあつても共感と連帯の絆に結ばれ心をつに生きていかなければならないということを知っていた。	・水平社の団結が私たちに訴えるものは何であるかを考えさせる。

学 習 活 動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
3 「人の世に熱あれ、人間に光あれ」をどう受け止めるかを考える。	・分裂が人間を不幸にしていくということに目覚めていた。 ・団結とは弱いものが生き残っていく知恵であるということとその生きざまの中から学び取っていた。 ・訴えることにより道が開かれるということを訴えている。 ・人間が人間として生き抜くための抵抗の精神を培う土台である。 ・人間が人間らしく生きていく道しるべとなっていく言葉である。 ・宣言の精神を日々の生活の中に生かしていかなければならない。 ・すべての人たちに生きる勇気を与えるものとして宣言文は存在している。 ・人間は互いの存在を尊敬するという真実の生き方を忘れてはいけない。	・水平社の団結の奥に秘められた意味を追求させる。 ・人間としての尊厳を守っていくために団結があったことを理解させる。 ・「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の中に秘められた意味について考えさせる。 ・水平社宣言が日本の近代社会における人権宣言と言われるゆえんについて考えさせる。

(2) 【授業記録】第3学年全体学習公開授業 (板野中学校体育館)

1991年10月11日 (金)

主題 「人の世に熱あれ、人間に光あれ」 (資料「水平社宣言」)

板野中学校3年B組

指導者 森口 健司

T 1 1922年3月3日、京都岡崎公会堂において被差別部落の人たちが、熱い思いを持って受け止めた宣言文について、この1時間じっくりと考えていきたいと思います。部落の先人がどのように宣言文をとらえてきたかを、みんなが今まで取り組んできた学習と重ねながら、宣言の一つ一つの言葉を味わい、みんなの思いを語り合う時間にしたいと思います。それでは宣言文を読んでもみます。言葉の一つ一つにみんなの思いを重ねて、じっくり味わってほしいと思います。



(宣言文を読む。)

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等の為めの運動が、何等の有難い効果をもたらさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒瀆されていた罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勵むかの如き運動は、かえつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、実行者であつた。

ろう劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖かい人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なお誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荆冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行為によつて、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間をいたわる事が何であるかをよく知っている吾々は、心から人生の熱と光を願求礼讃するものである。

水平社は、かくして生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月三日

全国水平社創立大会

T₂ 「吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集団運動を起せるは、寧ろ必然である。」部落の民衆が、部落の人たちが、人間の尊厳の自覚、すなわち人間を尊敬することと訴えたこと。「人間を尊敬することによつて自らを解放せんとする集団運動をおこす。」この言葉の奥にあるもの。部落の人々自身が人間の本質に目覚めて、部落を解放していくという運動が起こってきたということについて、みんなが思うことを発表してほしいと思います。

MM (男) 人間は互いに尊敬するもので、決して相手のことを憐れんだりかわいそうにと同惜するだけでは、決して根本的な解決にならないと思います。特に相手を自分より下においてその人を見下すような同惜は、はっきり言ってその人を侮辱することになると思います。常にお互いが同じ立場に立って、その気持ちを語り合っていかなければ差別はなくなならないと思います。

HM (男) 前の時間にも団結の話があつたけど、僕は団結は仲間を大事にすることといつしよだと思っています。やっぱり他の人を大事にすることがあつて、初めて団結することができると思います。

T₃ 今の発言についてどうですか。

SN (女) HM君の発言に付け足すみたいなんだけど、やっぱり人間というのは、一人でできないことがたくさんあつて、協力して初めてできることがたくさんあると思います。それでやっぱり、協力することは信頼できる人でなかったら、なかなかできないと思うんです。人間にはお互いの思いがわかり、信頼し合えるような仲間が必要だと思っています。だから、それぞれの人と尊敬し合いながら、生きていくということはそういう関係をつくっていく基礎づくりのようなものだと思います。

YI (女) 私もSNさんとよく似た意見です。やっぱり、人間というのはすごい弱いものだから、団結してみんなで頑張っていくということが大切だと思っています。そのためにも一人一人が相手のことを尊敬したり、思いやったりすることがとても大切だと思っています。

T₄ 今の発言につなげてください。

HI (男) やっぱり尊敬し合うというのは大切だと思っています。尊敬し合うというのは、人を見下したりすることがなくて、人を自分と対等に見ていくことであり、お互いのすばらしいところを学び合うということだと思っています。この人を尊敬する心をみんなが持てたら、差別なんかは完全になくなっていくと思います。

KU (男) いきなり難しい問題で困ったんだけど、僕の考えでは、信じ合うことによつて、常に相手を頼りにすることができ、支え合つて生きていけることを表わしていると思いました。

KT (女) 人間は互いに罵り合つたり、自分の地位や身分を比較するのではなくて、支え合つて生きるものだと思います。

MM (男) 尊敬し合うということは、互いに信頼し合うということにもつながっていくと思います。人間は互いに信じ合うことができれば、いっしょに頑張ることができて、お互いが支え合って頑張ることができるようになると思います。信じ合う心がなかったら、団結することもないと思うんです。でも信じ合っていれば互いに力を合わせて頑張ることができると思います。

SN (女) HI君に付け足すんだけど、HI君が最後にそれぞれの人が尊敬し合っていたら、差別もなくなっていたと言ったけど、私もそう思いました。今も差別は残っているけど、この宣言文が出される前は、それぞれの人を尊敬するというのではなくて、社会的地位や身分によって人間を区切っていたので、身分の違う人は自分とは全く違う人間のように扱ってきたから、ずっと差別は残されてきたんだと思います。それでMM君の意見についてなんだけど、やっぱりそれぞれの人間を尊敬しているということは、お互いのことを信頼することによって、私もつながっていくと思うので、人間は信頼し合えば、差別もきっとなくなっていくと思います。

YI (女) 私も、やっぱりHI君が言ったことについてなんだけど、人間同志が尊敬し合うということで、差別というのはその時点でなくなるし、人間というのは、尊敬したり尊敬されたりして、自分も頑張ろうという気持ちになるから、KTさんが言ったように、人間は尊敬し合うことによって、共に支え合う関係になっていくと思いました。

T。これが人間の真実ということかな。人間は尊敬するものであるということ。そのことに目覚めて宣言はこう訴えていますね。「誇りうる人間の血は涸れずにあった。」そしてその後こう結んでいますね。「吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。」この言葉。みんなの心の中にどのように響いていったのでしょうか。

YI (女) これを著わした西光万吉という人は、もう一度自分たちの本当の姿を見つめ直してほしいという気持ちがあったと思います。やっぱり同情融和運動に加担していくことは、自分たちが特殊部落民という人間として劣った存在である間違いを認めていくことになるから、その間違い気づいて、自分たちには全然差別される原因なんてないんだということを訴えたかったんだと思います。そして、自分の周りにいる友だちとか、お母さんとか、お父さんとか、その差別の中を必死になって、生きてきた人たちのすばらしさを認めてほしかったと思います。

T。今の発言につなげてくれますか。

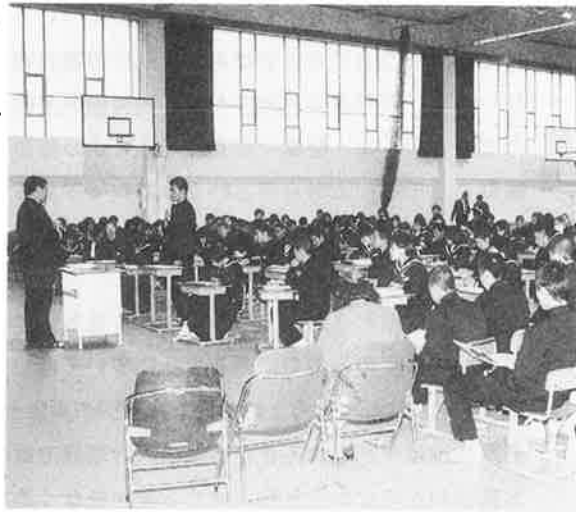
SE (女) 誇りうる人間というのは、最初誰のことをさしているのかよくわからなかったんですが、「吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。」ということは、差別の中を必死になって生きてきた生きざまこそ、尊敬されるべきものであり、その生き方を誇りにして差別をなくしていかなければならないと呼びかけているんだと思います。

HM (男) 「誇りうる人間の血は涸れずにあった。」というのは、僕がさっきも言ったことなんだけど、やっぱり人間を尊敬したり、相手に尊敬されたりしてこそ、本当の人間であって、そのすばらしい生き方を部落の人たちは、立派にしてきたということを言っていると思います。

す。

T。 尊敬し合うということが人間の本当の生き方であり、部落の先人はそのことをしっかりとつかんでいるということですね。

MM (男) 普通は、差別されていたら、自分のことしか考えられなくなって、相手のこととかは考えられなくなるけど、この西光万吉という人の著わした宣言文を読んでいたら、自分たちのことだけを考えているのではなくて、相手のこととかも考えていて、人は尊敬すべくものであることがしっかりとわかっていて、自分たちもその尊敬されるべき人間である自覚を強くもって、人間のあるべき姿を訴えているように思います。



T。 そして宣言はこう訴えていますね。「過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等の為めの運動が、何等の有難い効果をもたらさなかつた。」と言いきっています。水平社は同情融和運動を否定したと話をしてきました。これは昨年度の「人間に光あれ」(土方鉄)の全体学習でもいろいろな思いを語り合ったんですけど、今一度同情融和運動について押さえておきたいと思うんです。同情融和運動についてのみんなの考えを発表してほしいと思います。

T。 手の重たい人、頑張ってみんなの主体的、自主的行動によって行動を起こしてください。愛の反対は無関心です。すべては行動することから始まります。同情融和運動についての思い。聞かせてください。

J K (女) 私は同情なんてほしくないと思っています。部落の人はかわいそうだななんて思っほしくないです。同情することで差別はなくなるものではないと思います。お互いに一人の人間として認め合って、自分の一番つらい部分が出し合えるような関係をつくっていくことが大切だと思います。

M I (女) 私もJ Kさんとよく似ているんだけど、同情融和運動とは、地区以外の人、地区の人を上から見下ろした感じで、地区の人を自分と同じ対等の人間として認めていくのではないと思います。それと違ってこの宣言は、お互いが人間として尊敬し合うという人間として対等の立場で差別をなくしていく運動だから、融和運動とは全然違っていると思います。

K H (男) 同情融和運動とは、自分には関係ない部落差別は、部落に生まれたかわいそうな人たちの問題とする考えで、やっぱり対等でなく上から下を見下ろすという感じでだったので、水平社は同情融和運動を否定したんだと思います。

S N (女) 私もみんなとよく似ているんだけど、この同情融和運動をしてから部落と部落でない

人の間に、また一段と大きな差が生まれてきたというか。やっぱり部落の人たちは私たちと違うんだという差別する心が生まれたと思います。だからこんな同情とかをしてくれたって、嬉しくなかったと思います。

Y I (女) 去年この体育館で同情融和運動について、先生と言い合いしたことを覚えているんだけど、今思うとそのときはあんまり同情融和運動の本質が、私には理解できていなかったと思います。今年水平社宣言を通し同情融和運動について考えてみると、私が今まで持っていた甘さというか、間違いが見えてきたように思います。やっぱり差別をなくしていくという運動にしても、上から下というのではなく下からやるというか、みんなでいっしょにやっていくことが大切だと思います。

T₁₀ つなげてください。

MM (男) 同情融和運動は、やっぱり人を見下してなんか上から下しか見ていないようで、差別の原因が部落の人の中にあるように書いてあって、差別は社会全体の問題であるのに、同情融和運動だけだったら、絶対周りに差別の本質をわからせていくことができんと思うんです。部落差別は差別されてきた部落の人の問題ではなくて、差別してきた自分たちの問題という本質がわからなかったら、いくら差別をなくそうと言ったってただ言っているだけで差別の根本的な解決にはなっていないと思うんです。それと同情にも二種類あると思うんです。一つの方は、相手を見下してその人を憐れだと思っている同情と、もう一つの同情は、相手と同じ立場に立って同じ情けをもって、一緒に考えるという意味も含まれていると思うんです。差別をなくしていくために、いっしょに考えるということがとても大切でそのことがない同情は部落の人をみじめにしていだけだと思います。

HM (男) 僕はこの同情融和政策は、部落以外の人がこの部落問題に向き合って、自分のこととして取り組みたくないために、逃げ道のために行われた政策だと思います。この政策を実施しても、やっぱりみんなが言っているように、上から下を見下すという差別心だけが根強く残って差別の根本的な解決にはならないと思います。

Y I (女) さっきMM君が言ったことで、私もそれを2年生のときに確か仁木先生に聞いたことを覚えています。やっぱり上から憐れんだり、慈悲をたれるというのではなく。同情という漢字のように、同じ情け、同じ気持ちをもって、その人の悲しみや苦しみをいっしょに分け合っていて、共に支え合って生きることが大切だと思いました。私もその意味での同情ならすごいすばらしいと思います。

RS (女) 同情融和運動は、差別の責任は部落の民衆自身にあるとしているので、私はそれは違うと思いました。差別は差別する人に責任があると思います。同情は一つ高いところから人を見ているような感じだし、同情だけならその人の気持ちは絶対わからないと思います。

HI (男) 同情融和運動は、差別があるのは部落の方に責任があるとしているので、部落の人たちを苦しい立場において、部落の人たちを団結できないようにバラバラにして、全部一方的に部落の人が悪いようにしているので、やっぱりこの宣言が訴えていることとは全然違うと思います。宣言で団結を訴えているように、弱い立場にいる人たちが人間のあるべき姿につ

いて訴えることが、多くの人の心を開かせて差別をなくしていくことにつながっていくと思います。

T₁₁ 「人間は憐れむものにあらず、踏みつけるものにあらず、人間とは元来尊敬するものだ。」

これが水平社の底に流れる思想です。そしてその思いを受けて、宣言の一番最初に訴えた言葉、「全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。」先ほどから、団結という言葉を読みなの中から、何度となく聞かせてもらって心の底からこみ上げてくるものがあるんですけど、4月から頑張ってきたこの学習、今までの学習を振り返りながら、宣言が訴えた団結の意味、私たちが学んできた団結とは何だったんだろうか。みんながこの団結ということに寄せて思うことを語ってほしいと思います。

K K (女) 一人では何もできないけど、みんなでいっしょになってやればできると思います。だから、団結というのは今のB組にそっくりあてはまると思います。みんながいたからいい授業ができて、支え合うことができるんだと思います。

S N (女) 私もK Kさんと同じで、やっぱり信頼できる仲間がいるから、みんなの前で一人一人が自信を持って堂々と発表もできるし、もし私が間違った方向に行きそうになっても、また困ったときとかにも、ちゃんとそのいい方向に引っ張ってくれる友だちとかがたくさんいるので、お互いを認め合って尊敬するということは、やっぱり団結するということに結び付くと思うんです。今日の授業を全部まとめたら、結局人間はお互い尊敬し合うということにまとめられると思います。

K T (女) 3年B組にあてはまると、団結すると一人一人の訴える力も大きくなるし、団結するとみんなが強くなれると思います。

Y I (女) 私は昔こういう授業とかがあったりしたら、私は一人で頑張っていきますというような感じのことを言っていたけど、やっぱり振り返って考えてみたら、結局一人では何もできなくて、何かいつも逃げていたような気がします。だけど、2年生のときから、みんなといっしょにこの学習に取り組んできて、みんなで頑張ったら何でもできるなという感じがしてきました。それにみんなから教わったことがいっぱいあります。そして、どんなつらいことでもみんなとだったらプラスに変えて、自分の力として吸収できていくという感じなんです。この宣言文が訴えている団結というのは、みんながバラバラにならないようにと訴えているんだと思います。みんなで頑張っていけば、大きな差別にでも立ち向かえるということが言いたかったんだと思います。

T₁₂ ありがとうございます。Y Iさんにつなげてください。

S E (女) 私は団結という言葉の意味を「信頼し合えて、離れ離れになっても、いつでも悩みを打ち明けられる一生の友だちをたくさんつくること。」と考えています。私もみんなが言うように一人じゃ何もできないし、何も始まらないと思うから、自分で自分をさげ出して、それによって周りの子も応えてくれて、それでまた仲間ができて、それが段々と広がってきたと思います。この団結の大切さと団結のすばらしさは、私たちが今までの学習の中から実際に体験してきたことだから、自信を持って言い切れると思います。

MM (男) 団結は、やっぱり一人一人だったら弱い力だけど、みんなが集まれば大きな力になるし、だけど、団結するにも一人一人が、信頼して信じ合っていなければ、その団結は団結する前に崩れてしまうと思うし、もし団結しようという気があっても、周りに無関心な人がいたら、とても腹が立ったりするけど、やっぱりこの問題は無関心では解決できないし、一人で頑張っても支えがなかったら崩れてしまうと思うんです。この差別の問題はみんなが心を一つに団結しなければ解決できない問題だと思うし、その団結は信頼し、信じ合うという深い絆が土台となつてできるものだと思います。

T₁₃ みんなが3年B組の団結を支えていく一人一人であってほしいし、仲間の訴えに応えていく一人一人であってほしい。

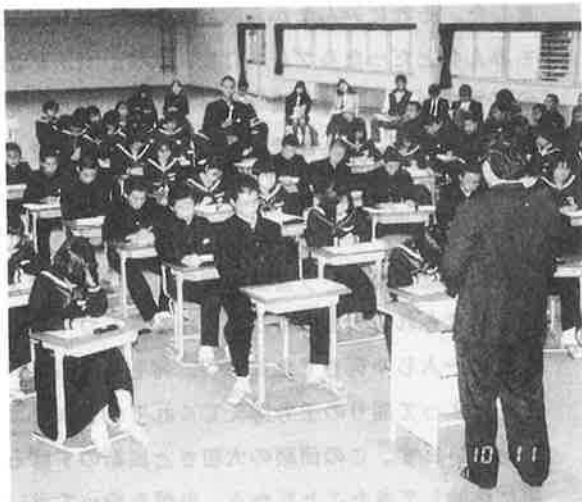
Y I (女) みんなになんだけど、今日の授業とかでも一生懸命発表している子は、一生懸命発表しているんだけど、発表していない子とかは、「ああ、あの人がよう頑張ってるよ」とか思っているかもしれないけど、こうやって自分の意見を言っている人は、本当はすごい恐いんです。自分が発表しているとき、みんながどう思っているのかとかいろいろ考えて、すごい不安になるんです。だけど、その自分が発表した後に、みんなが手を挙げてくれて、意見を言うてくれたら、すごい嬉しくて、やっぱり自分は支えられているんだと思うんです。でも無関心でおられるとほんまに悲しくなるんです。やっぱりみんなで熱くなっていきたいし、この授業をやっぱり大切にしたいなあと思います。

KH (男) 団結とは、一人が訴えたら、その思いをつなげたり、思いを付け足したりして、絶対に一人にしない。一人で闘わせないという意味だと思います。

Y S (男) Y Iさんの意見を聞いて、団結は一人でも欠けたらあかんと思いました。何か今までずっと下を向いてばかりで、聞くばかりでいたことが情けなくなりました。団結することによって、つながりのなかった人とかに会えたり、信じ合える心が生まれてくると思うんです。それによって差別に打ち勝っていく心が生まれてくると思うんです。

T₁₄ 「吾が特殊部落民よ団結せよ。」という団結の奥に流れるものですね。宣言はこう締め括っています。「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」みんなはこの言葉をどのように受け止めましたか。「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」という言葉に寄せる思いを宣言文全体につなげて、授業の締め括りとして語り合いたいと思います。

H I (男) この宣言の中にあるように、差別が残っている今の社会は「呪われの夜」であり、「悪夢」の世の中だと思うんです。そんな社会であつても人間は尊敬し合うものであるという人間本



来の姿をすべての人にわからせることにより、人々は人間本来の熱や光を取り戻していけると思うんです。そのことが差別のない。誰もが生まれてきてよかったと思える社会を、築いていくことにつながるんだと思います。

HM（男）今日、今まで勉強してきて、やっぱり僕はこの勉強は、お互いを人間として認め合ったり、尊敬し合ったりすることがとても大切だと思うんです。その尊敬するという心がなかったら、他の人との信頼も生まれてこないし、団結とかもできないから、やっぱり人間として人を尊敬するという心をもつということが一番必要だと思います。

MM（男）やっぱりこの学習はみんながいないと成り立たないもので、一人で頑張ってもどうにもならないところが出てくると思います。僕もやっぱり尊敬ということが大切だと思うし、信頼関係とか人間の絆とかいろいろ学習してきたけど、そんな人間の結び付きがとても大切だと思うんです。それで「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」というのは、部落の人が自分たちだけのことを考えているんじゃないで、周りの人全体の解放を願って言っているものだと思うし、やっぱり社会の中には部落差別だけでなく、他にもいろいろな差別があると思うし、昔は今以上に人と人との間に大きな壁があって、お互いの思いを話し合ったり、尊敬したり、心一つに団結したりすることがなかったと思うんです。「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」とは、そんな壁がなくなって、人と人とが結び付いたり、心と心が通い合って、みんなの表情が明るくなって、本当の思いが語り合えて熱くなれたり、みんなが生きる喜びをつかんで人間としての光を放っていく。そんな社会をつくるということ何だと思います。

TK（女）2年生のときにも、この宣言を読んだけど、そのとき私は、自分が部落に生まれたということを知らなかって、こんな私には関係ないという考えしかできなかったけど、今になったらそのことが恥ずかしいし情けないです。私はこの宣言文の中で、「吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。」というところが、私の今の状況に似ていると思います。

YI（女）私は前から、この「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」という言葉がすごく好きでした。それでこの水平社宣言の学習を深めていく中で、もっともって好きになっていきました。その理由はこの言葉は、自分たちだけの解放を願ったのではなくて、人間全体が差別から解放されることを願っているということがすごく嬉しかったです。私はこの学習をみんなと深めていく中で、苦しみや悲しみの多い人ほど、優しくなれるんだと思いました。優しいということは優れているということだし、だから先生がいつも言っている「優しい人は強い」というのは、このことなんだなあと思いました。私はまだみんなの悲しみとか苦しみとかを担げるほど強くないけど、決して下を向くことがないようにしっかりと胸を張って、目の前の差別を見つめて、みんなといっしょに頑張っていきたいと思います。

KO（女）人間は光と影に分かれてはいけないと思いました。すべての人が光をいっぱいに浴びて、生きるということに喜びをいっぱい感じて生きていく社会でなければならないと思います。

JK（女）私は部落問題を学習して、3年B組のみんなを信頼できるようになったと思います。

みんなを信頼できたから、自分のことを打ち明けることができたと思います。みんなですしよに熱くなって、差別と闘っていきたいと思います。

SN (女) 私も「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」という言葉が好きなんですけど、この言葉は部落のことだけを考えてつくった言葉でないと思います。部落に生まれた人も、部落に生まれなかった人も、みんながニコニコ笑って幸せに暮らせるように願って、つくった宣言であることがわかりました。そして、差別がなくなったとき、人間は本当に光っていけるんだと思います。

SE (女) 私は「人の世に熱あれ」というのは、私たちにもっともっと熱くなれと呼び掛けているみたいな感じがして、「人間に光あれ」というのは、夜がきても必ず朝がくるように、いつかは光が見えてくるから、頑張れと言っているみたいに思います。

KH (男) 人がみんな差別を自分に関わる問題として考え、その悲しみや苦しみを知って絶対なくさなければという熱をもって、差別をなくしてほしいという願いも「人の世に熱あれ」には込められていると思います。

T₁₅ ありがとうございます。私たちも仲間の叫びに必死になって、応えていく一人一人であり続けたい。そんな絆を大切にしていきたいと思う。つなげてほしい。

MM (男) 授業をちょっと離れるんですけど、ここで発表しなかったら、自分がこの前そうだったように、公開授業が終わってから、すごく自分に腹が立って、情けなくなったりするので、やっぱりここでできるだけ多くの人に発表してもらいたいと思います。

TF (男) この宣言のように、自分一人だけの幸せや解放を願うのではなく、みんなの解放を願ってみんなで幸せになっていこうとすることによって、団結が生まれてきて、人間には「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」というすばらしい思いが生まれてくるんだと思います。

T₁₆ この緊張感のある中で、自分の思いを発表できたことを誇りに思ってくださいよ。

YS (男) 僕もTF君と同じで、この「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」という言葉は自分たちだけの幸せでなく、全体の幸せを願っているのだと思います。そして、それが人間の本当の優しさであり、人間を尊敬することにつながっていくんだと思います。

RH (男) 僕もTF君と同じけど、この言葉は自分たちのことだけを考えているんじゃないくて、世界のすべての差別をなくしていこうとする願いが込められていると思います。

HM (男) さっきSEさんが言ったけど、僕もこの「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」という言葉は、僕たちの生き方を励まし、いつさいの差別のない社会を願っている言葉だと思います。僕たちはこの言葉の中に込められた僕たちへの励ましや願いをしっかりと受け止めて、僕たちの思いをもっともっとぶつけていかなければいけないと思います。

MO (女) 私は友だちとかに相談されても、何を言ってあげたらいいのか分からないし、みんなが発表しても、自分が思っていることをうまくまとめることができないんだけど、さっきYIさんが言ってくれたけど、私はみんなが言っていることを無関心に聞いているように思えて、このままではいかんと思って本当はもっと言いたいんだけど、みんなみたいにうまくいって発表できないので、発表するん恐くてなかなかできん。

Y I (女) 発表がうまいとか、うまくないとか、そんな関係ないと思います。今、MOさんが手を挙げてこうやって言うてくれたことだけで、絶対励まされた人が、何人もいると思うんです。だから恐がらないで、どんどん発表してほしいと思います。

SN (女) 私も同じなんだけど、うまくまとめるとか、まとめられんとかじゃなくて、誰かが発表したのを聞いて、その人とか、みんなに応えていかなければという気持ちがあって、手を挙げて何か言おうとしてくれただけで、私も次からもっと頑張ろうという気持ちになるし、みんなもそうだと思います。



T₁₇ 時間がきてしまったけど、みんなの言葉で終わりたいと思います。

Y I (女) この授業、やっぱりいつもの道徳の授業よりも熱の入ったものになったと思います。みんなの気持ちは、ここにいる周りの人たちに絶対伝わっていると思います。先生からこの授業を見るために、上板中学校の先生をきていると聞いたんだけど、やっぱり一つのクラスの思いを学年全体の思いとして取り組んでいく授業、板野中学校だけの取り組みで終わらせたくないと思います。どの学校においても、どの学年においても、この学習は必死に取り組まなければいけないと思います。だから、私たちも中学のときだけでなく、ずっとずっと差別がなくなるまで、闘っていかなければいけないと思います。

T₁₈ 最後に一つだけ、詩を紹介して終わります。さっき授業の前、KKさんが「先生、こんな詩をつくってみた」と言ってくれた詩です。

『闘い』

闘い。

それは仲間を支えることから始まった。

お互いを信頼することから始まった。

闘いの炎は、今、激しく燃えている。

この学習が終わっても、高校に行っても、

闘いの炎を絶やすことなく、生きていこう。

それが、私の友だちへの、友情だと信じているから。

T₁₉ 終わります。

宣言

全國に散在する吾が特殊部落民を團結せよ。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等のための運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒瀆されてゐた罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勵むかの如き運動は、かえつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり勇ましき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が來たのだ。殉教者が、その刑冠を祝福される時が來たのだ。吾々がエタである事を誇り得る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行為によつて、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勵む事が何んなであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月三日

(水平社パンフレット「よき日の為」より)

全國水平社創立大會

綱領

一、吾々特殊部落民は部落民自身の行動によつて絶対の解放を期す。

一、吾々特殊部落民は絶対に經濟の自由と職業の自由を社会に要求し以て獲得を期す。

一、吾等は人間性の原理に覺醒し人類最高の完成に向つて突進す。

決議

一、吾々に対し種多及び特殊部落民等の言行によつて侮辱の意志を表示したる時は徹底的糾弾を爲す。

一、全國水平社本部に於て吾等團結と統一を図る爲め月刊雜誌「水平」を発行す。

一、部落民の絶対多数を門信徒とする東西兩本願寺が此際我々の運動に対し抱蔵する赤裸々なる意見を聴取し其の回答により機宜の行動をとること。

水平社宣言

（西光万吉・起草）

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。

被差別部落の人口は、わが国、全人口に対して少数であると同時に、ある地域内においてもやはり少数であった。まさに散在するのである。部落の民衆は、常に少数派であるがゆえに泣かされてきた。水平社の団結は、理論や知識でなく、差別の中で必死になって生きていく中からつかみ取った知恵である。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等のための運動が、何等の有難い効果をもたらさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒瀆されていた罰であつたのだ。

「兄弟よ」とは、苦しみを同じくするものへの熱烈な呼びかけである。

「過去半世紀間」とは、明治4年（1871）解放令から大正11年（1922）全国水平社創立大会（明治維新以来）の50数年間をさす。

「種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等のための運動」、その「運動が何等の有難い効果をもたらさなかつた」と評価する。その原因は、「夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒瀆されていた」からであると述べている。

すなわち、水平社は、同情融和政策の否定する。

そもそも同情とか、憐憫とか、慈悲というものは、どこからでてくるのだろうか。それは人間の思い上がりに発するのではないだろうか。

「お前は貧乏だからつらかうね」と同情し、「お前は部落に生まれて運が悪かったね」と憐憫をよせ、そして、「今は貧乏な部落の人間でも、世を呪わず、人を怨まず、自分に絶望せず、善行を積みめば、来世は必ず幸せになれるんだよ」と慈悲をたれる人は少なからず気持ちがいいだろう。しかし、人の世にこれほど憎むべき、傲慢不遜の行為はない。

それは、自らの身分の尊さ、地位の高さ、財の豊かさを何の疑いもなく、至極当然のこととして肯定していることであり、それは同時に私たちの地位や身分の低さを肯定し定着させようとするものである。

大日本平等会創立大会での平等会をこき下ろした水平社の宣伝演説（西光万吉）

「今日まで随分多くの人たちが、部落の改善を唱え、融和を説き、そして憐憫や同情を寄せてこられました。けれども、もし、改善すべきものがあるとしますなら、それは特殊部落ではなくて、私たち三百万の人間を特殊な存在と見なしている社会そのものではありませんまいか。私たちは、かつて我が身を特殊などと思つたことはありません。特殊な事実はどこにもないからであります。それを部落の生まれだと言って差別し、政

治の上でも経済の上でも、更に教育や軍事の上でも圧迫を加えて貧困のどん底につき落とし、とうとう特殊にしてしまったのは、実に社会そのものではありませんか。このような道義のはずれた社会を、人間的正義の社会に改善、あるいは改造することなくして、なぜに私たち三百万人に人間としての心の幸福がおとずれましょうか。」

同情融和論の批判と指摘を水平社は明確に行なった。（よき日の為に）

① 同情融和運動は、本質的な差別心にほおかわりして、絶対優位の立場から同情や憐憫を与えようとしている。

② 同情融和運動は、差別の責任を部落の民衆自身にあるとし、差別の解消は本来社会そのものの改善によってなすべきであるのに、部落の改善によってこれをなそうとしている。

「（これら）の運動が（われわれ部落の民衆にとって）何等の有難い効果をもたらさなかった。」そして、「事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒瀆されていた罰であつたのだ。」

人間の冒瀆とは、本来平等であるものを下位において、絶対優位の立場から憐れみを注ごうとする態度、まさしくそれは部落の民衆の人間性に対する冒瀆なのである。

そして、そのことが、部落の民衆以外の他の人々によつてなされた場合には憤りがあるばかりであるが、部落の民衆自身によつても「部落の民衆の人間性を冒瀆する運動、同情融和運動は行われていた。『全国細民部落改善協議会』には、大臣、華族等と共に、部落の融和運動家数十名が参加していた。

「罰」とは、他人の過ちが己に禍いすれば憤りがあるだろう。しかし、自己の側の過ちが自己の「人間性の冒瀆」となつて返つてきたことに対しては、苦渋に満ちた反省があるばかりである。宣言文はこのことを「罰」という言葉で表現している。

そしてこれ等の人間を動かすかの如き運動は、かえつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、

「人間を動かすかの如き」とは、本当に人間を動かす運動ではない。差別の根本には何ら変更を加えることなく、表面だけで差別の解消を口にし、上からの同情を振りまこうという運動のことである。

この運動は、かえつて多くの兄弟（部落の民衆）を墮落させたと宣言文は訴えている。

「墮落」とは何か。同情融和・部落改善のやり方は、例えて言えば、理由もなく相手を殴りつけて瀕死の重傷を負わせておきながら、お前は惨めだ、憐れだ、気の毒だと言っているのとそっくり同じではないかと思う。それが果して同情だろうか。そのような暴漢に、どうぞ仲よくお付き合い願いますと、頭を下げて頼みにいくのが果して融和であろうか。

このような見方からすれば、同情融和運動に加わつて、「どうぞ仲よくお付き合い願います」と頭を下げて頼みに行くのは、そのこと自体許されない「墮落」である。

此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集団運動を起せるは、寧ろ必然である。

「想へば」（反省すれば）、「自ら解放せんとする者の運動」、すなわち水平社の運動は以上の反省から必然的に生まれた。

「夫等のすべてが」「人間を冒瀆」する運動とは、同情融和運動のすべてを指す。

「人間を尊敬することによつて」とはどういうことなのか。

女性や、労働者や、貧しい者や、部落の民衆を賤しいとして差別をするのは、社会の秩序が貴賤の別によって維持されるという封建思想にわざわざされていて、人間は生まれながらにして平等であり、自分が尊ければ他の人も尊いという真理に気づかないからである。人間に上下、貴賤ありと思っている人たちは、鬼に魂を傷つけられ人間性を喪失してしまった存在である。

「人間を尊敬する」とは、「人間は生まれながらにして平等であり、自分が尊ければ他の人も尊いという真理に立つことであり、この場合、特に部落の民衆自身が人間的尊厳を自覚し、まちがっても自らが自らの「人間性を冒瀆」することがあつてはならないと説いている。

- ① 同情的差別を排することによって部落を解放せんとす。
- ② 部落民衆の自発的運動によって部落を解放せんとす。
- ③ 部落民衆に人間的尊厳の覚醒をうながすことによって部落を解放せんとす。

兄弟よ、

苦しみを同じくするすべての部落民衆に対して、いたわりと、親愛と、団結の気持ちをこめて。

吾々の祖先は自由、平等の渇仰者であり、実行者であつた。

自由・平等の実行者とは、時の支配権力に対する反抗者。支配者側からみれば、反逆という一番の重罪であり、反抗する側から言えば、「自由、平等の実行者」なのである。

ろう劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。

「殉教者」、水平社の指導者のみならず多くの部落民衆によって、キリスト教の思想は親しみを持って迎えられていた。それは、人間平等の理念と虐げられた者への救いの教えであつた。

「階級政策の犠牲者・産業的殉教者」、水平社綱領には、われわれ部落民衆は絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し以て獲得を期すとある。

ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖かい人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、

「呪われの夜」、江戸時代から筆舌に尽くし難い差別に苦しんできた今まで暮らしは、まさに呪われの夜

であり、暗黒の時代であつた。

「ケモノの心臓を裂く代価として、暖かい人間の心臓を引裂かれ」とは、男らしき産業的殉教者の具体的説明である。部落の民衆が、その仕事として昔からさせられてきた屠殺・皮革の仕事。その仕事にたずさわるが故に受けてきた筆舌に尽くし難い蔑視。その心の傷は、心臓を引裂かれるほどと表現しても決してオーバーではない。

「そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢」

「和七少年の死」（物語 部落解放史）北谷 正

何人もの和七が、江戸時代から今の今にいたるまでこのような惨い死を遂げてきた。生まれては死んでいつた何千何万という部落の民衆が受けたこのようなつらいひどい差別の量を宣言文は一語「呪われの夜」と固めた。

なお誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。

人間としての尊厳を有している。

他人に部落民と嘲られると、つい自分の指先をぶすりと針で突き刺してみないではおれない。にじみ出る血の赤さで、自分はまちがいに温かい血の通っている人間だということを確かめずにはいられない。

そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあうたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荆冠を祝福される時が来たのだ。

悪夢のような差別の過去から、差別してきた者たちこそいまわしい存在であり、長い間差別に堪えてきた自分たちこそ真の人間として讃えられるべきだ。そういう時代がやってきた。それは水平社によせる期待である。

「人間が神にかわらう」とは、人間が神にかわって自由・平等の新しい社会をつくるという訴えである。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。

どのような厳しい暮らしにあつても、どのようなひどい差別の中にあつても、決して卑屈になることはなかった。生命の重さを見事にとらえ、必死に子どもを育て生きてきた。人間としての誇りを失うことはなかった。人間としての誇りを失わずに生きてきたことがわれわれ部落民衆の誇りである。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行為によつて、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。

私は、エタだと蔑まれ、部落民だと嘲られ、身も心も冷え凍る思いの毎日であり現在も変わりがない。しかし、それだからといってわが身が惨めだとか、悲しいかと思うことは決してない。なぜなら、私は世間

からエタだと蔑まれ、部落民だと嘲られなければならない理由を、我が身にも我が心にも感じないからだ。今かりに、日本の全国民が、口を揃えてお前は生まれつき賤しいエタだと罵ったとしても、私は自分がその嘲りに相当する賤しい人間だとは絶対に思わない。

どうしてかという、この地球上の人間は、人種によって肌の色に白い黒いの違いはあっても、すべて人間として平等だと信じているからである。

宣言文の言葉を胆に命じている人間の強さ、すべて人間は平等だという信念に支えられて生きている人間の姿、人間平等の思想から人間性の尊厳の自覚は生まれる。

そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間をいたわる事が何であるかをよく知っている吾々は、心から人生の熱と光を願求礼讃するものである。

数々の差別の痛みを知っているからこそ、真に人間をいたわる優しさを持っている。呪われた夜のように暗かった過去、魂の冷え凍るような周囲の差別、これからは解き放たれて人間としての尊厳が熱や光のように照り輝く人生を心から願い求め讃美する。

水平社は、かくして生まれた。

- ① 同情融和運動の否定
- ② 部落民衆の人間的尊厳の自覚
- ③ 団結

この3点を強力に推し進めることによって、部落の解放を期す必要から水平社は結成された。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

人間性が蹂躪され、呪われた夜のように暗かった人の世、そしてその中で魂の冷え凍るような思いで生きてきた部落の民衆、そして、部落だけでなくすべての人間の上に人間の尊厳が、熱や光のように輝かしくよみがえれと願うおおらかさ、優しさ。

水平社宣言が日本の近代社会における人権宣言といわれるのは、水平運動が部落の民衆の解放のみならず、すべての人間の解放を目指す普遍的原理を内在しているからである。

1922年（大正11年）3月3日

全国水平社創立大会（京都岡崎公会堂）